

三鷹市立第 中学校 令和5年度【理】科 授業改善推進プラン

	前年度授業改善推進プランの検証	学習状況の現状と課題	指導方法の課題と授業改善策
第1学年	<p>○実験では、課題を意識して仮説から考察まで行うことで、学習活動のつながりを意識でき、理解が深まった生徒が増えた。</p> <p>○各授業において、新しい知識・技能を学習した場合に、クイズや問題演習等を取り入れることで、基礎的な知識・技能を確実に定着できた生徒が増えた。</p>	<p>【現状】</p> <p>○内容に興味関心が高いが、知識が定着していない生徒が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○既習内容を次の学びにつなげる力が弱い。</p> <p>○友人の意見を受け止め、自身の考えとの比較や関連性を見つける力が弱い。</p>	<p>【課題】</p> <p>○学習のポイントを意識できていないまま活動に参加している生徒への支援。</p> <p>【授業改善策】</p> <p>○単元や内容ごとに、小テストを実施するとともに、ワーク提出を実施することで、家庭学習の支援をする。</p> <p>○実験や観察レポートの評価基準を明確に生徒に示し、その都度フィードバックする。</p>
第2学年	<p>○実験や観察でのポイントを整理し模範を示すことで、考察する力が高まってきた生徒が増えた。</p> <p>○内容のまとめの授業において、簡単な問題演習等を取り入れることで、基礎的な知識・技能を確実に定着できた生徒が増えた。</p>	<p>【現状】</p> <p>○実験レポートで明確な評価基準を示すことで、結果のまとめ方（技能）や考察の仕方（思考）を意識し始める生徒が増えた。</p> <p>○授業の中で、自分の意見を述べたり、他者の意見を聞いたりする活動を取り入れることで、考えをもつことと考えを深める体験が増えた。</p> <p>【課題】</p> <p>○技能や思考に関する評価基準を明確にして模範を示したとしても、その学びを発展させる力が不足していて次につながらないことがある。</p> <p>○グループワークに積極的に参加できない生徒への支援が必要。</p>	<p>【課題】</p> <p>○下位層の生徒への支援（授業中、家庭学習）。</p> <p>○考える力の向上に向けたグループワークの活発化。</p> <p>【授業改善策】</p> <p>○ワークの取り組み方、テストの振り返り方、授業の復習等を指導する。</p> <p>○実験・観察のまとめの授業において、レポートの書き方解説では口頭説明だけでなく、視覚的資料も活用しながら、評価に関するフィードバックを丁寧に行う。</p> <p>○グループワークにおいて、全員の発言量が同等で活発な話し合いになるように、事前に個人の考えをまとめる時間を十分に確保する等の工夫をする。</p>
第3学年	<p>○テストの振り返りについて個々にフィードバックすることで、よりよい振り返りができるように取り組んでいる。</p> <p>○実験観察の考察とまとめでは、生徒が記録した動画や写真などの視覚的資料を提示することで、理解を深められるようにしている。</p> <p>○グループワークでは、個人の考え→それぞれの考えを共有して修正する手順を進めることで、考えを深めることに役立っている。</p>	<p>【現状】</p> <p>○1、2年でのグループワークの経験が生かされて、速やかに活動している。</p> <p>○実験観察の振り返りに、「仮説を立ててから実験すると目的がはっきりして理解しやすい。」と書く生徒が多い。</p> <p>【課題】</p> <p>○仮説を立てさせる際に、既習事項や生活体験をもとに、根拠をもって考えさせること。</p> <p>○実験観察では、理解が深まるように「仮説は何だったか。」「何を確認したいのか。」を常に確認すること。</p> <p>○学習の定着が思わしくない生徒に対する支援。</p>	<p>【課題】</p> <p>○教師側の説明時間が長くないようにする。</p> <p>○根拠をもとに仮説を立てたり、考察できたりするように、科学的な「見方や考え方」に着目できるような発問をする。</p> <p>○自分の考えをじっくり導き出す時間の確保。</p> <p>○他者の考えを参考にして、よりよい考えを導き出す場面や時間の設定。</p> <p>【授業改善策】</p> <p>○対話的な学びの時間を増やし、自分の考えを発信したり、他者の考えを聞いたりすることで、学びを深められるようにする。</p> <p>○生徒の振り返りに対して、フィードバックして、考えを深めたり、試行錯誤して新たな課題を見つけて、学習を調整する学びに向かう力をつけさせるようにする。</p>